

広島大学平和センター CPHU NEWSLETTER 2024

〒730-0053 広島市中区東千田町 1-1-89
TEL: 082-542-6975 FAX: 082-245-0585
E-mail: heiwa@hiroshima-u.ac.jp
Website: <https://heiwa.hiroshima-u.ac.jp>
(2020年9月よりホームページ URL を変更しました)



ご挨拶

混沌とする今だからこそ、「平和」とは何かを考えたい

広島大学平和センター長
川野 徳幸



ロシアによるウクライナへの軍事侵攻がはじまり 2 年半以上が経過しました。いまだ、その戦争の惨劇は継続し、多くの市民・軍人が犠牲となっています。また、パレスチナ・ガザ地区でもイスラエルによる攻撃で多くの無辜の市民が犠牲となっており、いまだその終息の糸口は見えていません。私たち人類は、戦争・紛争による結果が、如何に残酷であるのかを歴史から学んでいるはずですが、しかし、人類はそれを繰り返しています。なんと愚かなことなのでしょう。

先の大戦で 300 万人以上の犠牲を払い、原子爆弾によって甚大な被害を被った「唯一の戦争被爆国」日本は、戦争による惨劇がいかなるものかを知っています。それ故に、戦後一貫して、「平和国家」を標榜してきたのだと思います。被爆地である広島と長崎は、地獄のような原爆被爆体験を誰にも二度と経験してほしくないという強い願いから「核なき世界」、そして「絶対非戦」を訴え続けてきました。

今日の国際社会は、1945 年以前の「力による政治、現状変更」に回帰している感さえあります。こういった混沌とした今であるからこそ、平和国家日本、そしてヒロシマ・ナガサキの役割と責任はことさらに大きいと思います。こういった時代だからこそ、「平和」とは何か、いかに重要なものであるのかということを訴え続けていきたいものです。幸いに、私たちは、大学という高等教育機関に属しています。若い学生たちとこういった一見青臭いことを、真剣に考える場（講義）を今後も展開し続けていきます。

2023 年度の報告は、後述のとおりですが、昨年度は、令和 4 年度に採択された「国立大学経営改革促進事業」の一環として、2023 年 4 月に核兵器廃絶国際キャンペーン (ICAN) と共催で「広島 G7 ユースサミット」を開催いたしました。G7 各国を中心とした世界 19 か国から若者や学生 50 人が集まり、パネルトークやワークショップなどを通して、核兵器の非人道性を学ぶ

とともに、核兵器廃絶に向けてどのような行動がとれるかを議論しました。また、被爆者の証言を聞いたほか、平和記念公園、広島平和記念資料館、原爆ドームなどを訪れ、最終日には、G7 首脳に向け、「広島 G7 ユースサミットからのユース声明」を発表し、核軍縮に向けた 11 の具体的な提言を行いました。

また、7 月には笹川平和財団との共催で国際会議「世界秩序の未来と核：広島から考える－抑止・戦略、軍縮・軍備管理、人道的影響の現在地－」を開催いたしました。国内外で活躍する第一線の研究者を招聘し、核兵器をめぐる現在の国際情勢と今後の展望について議論しました。たしかに、今日の国際社会の現状を鑑みると、「核なき世界」を直ちに実現することは難しいかもしれません。しかしながら、核兵器が三度つかわれることを看過するわけにはいきません。「使わせない努力」そしてその先にある「廃絶」に向けて、不断的努力を続けたいと思います。

これら以外にも、「平和構築コロキウム」を構築し、経済、歴史、政治などをテーマに各分野における第一人者の講演会を実施し、国際社会を分断する原因とその解決策について意見交換の場を設けました。2024 年度には、そこでの成果を提案書としてまとめる予定です。ご期待ください。

以上の諸活動は、以下の URL に詳しく記しております。閲覧いただければ幸いです。

<https://heiwa.hiroshima-u.ac.jp/hub/index.html>

メディア等で既にご承知の方も多いと思いますが、2023 年 1 月 25 日、本学は、広島市、広島市立大学及び広島平和文化センターと平和に関する「知の拠点」の形成に向けた連携協力に関する協定を締結しました。旧理学部 1 号館の改修後には、広島市立大学広島平和研究所と弊センターが同地に移り、共同して研究・教育を展開する予定です。2023 年度から単位互換における制度設計の議論を開始し、2024 年度には両大学において規定等を整備し、2025 年度から運用を開始する予定です。また、共

同研究、ディスカバリーに関するワーキングも立ち上がり、具体的な協働のあり方について検討を始めました。いずれも、旧理学部1号館完成に先立って、諸活動が始まります。

弊センターは、今後も被ばく地「ヒロシマ」が標榜する「平和」を強く意識し、原爆・被ばく研究、核兵器をめぐる国際関係の研究、記憶学、平和構築研究、構造的暴力などを包む学際的な平和研究・平和教育に取り組めます。具体的には、①ヒロシマ平和研究領域、②グローバル平和研究領域、という2つの研究領域の重点化を図り、当センターの研究力の強化と特化を行います。そして、その成果を教育の場、そして社会に還元します。この目的のために、従来どおり、国際シンポジウム、研究会、既存の紀要・研究報告シリーズの刊行、広島大学の看板科目群である「平和科目」への主体的な参画、大学院共通科目「持続可能な発展科目」における平和科目への主体的な参画、原爆・核問題をテーマにした市民向け公開講座（広島平和記念資料館と連携）、学内の「平和」をキーワードとする学内特定プログラム（Global Peace Leadership Program など）への積極的な参画、さらには8/6 広島大学平和企画などに取り組んでまいります。

最後にご報告がございます。これまで本学の教育・研究、そして弊センターの運営に多大な貢献をいただいた友次晋介准教授が、2024年3月末をもって退職し、大阪経済大学に異動いたしました。これまで様々な活動に真摯に取り組んでいただきました。あらためて御礼申し上げます。友次准教授の後任には、2024年7月に戸崎洋史先生をお迎えすることができました。なお、本人事に関しては、学長はじめ関係各位に大変お世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。また、2024年4月にVASILEVA, Vladisaya Bilyanova先生を助教としてお迎えいたしました。両先生には、今後、教育と研究に邁進いただきたいと願っています。

それでもなお、専任教員4名、特命教授1名、研究員1名、契約職員1名、教育研究補助職員1名という小さな所帯であることにかわりありません。職員一同一丸となって、教育・研究・社会貢献に邁進いたします。関係各位におかれましては、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

(2024年10月5日 記す)

2023年度のセンターの活動

【国立大学経営改革促進事業】

***核兵器廃絶国際キャンペーン (ICAN) 主催/広島大学平和センター共催・共同実施 広島 G7 ユースサミット**

2023年4月25日～27日広島大学東広島キャンパス学生会館、広島平和記念資料館で開催（G7各国を中心に世界19か国から若者や学生50人参加）

*笹川平和財団主催/広島大学平和センター共催国際会議

「世界秩序の未来と核：広島から考えるー抑止・戦略、軍縮・軍備管理、人道的影響の現在地ー」

2023年7月1日東千田未来創生センターで開催（約80名参加）、YouTube ストリーミング配信あり

*平和構築コロキウム

第1回（2023年7月4日/東京）経済的二極化の影響

澤田 康幸（東京大学大学院経済学研究科 教授）

「二極化する世界における市場・政府・コミュニティ」

第2回（2023年9月3日/広島）歴史

五百旗頭 真（ひょうご震災記念21世紀研究機構 理事長）

「危機に立つ世界と日本」

第3回（2023年9月4日/広島）歴史

野口 昇（元ユネスコ北京事務所長）

「東アジアにおけるユネスコ活動から平和について考える」

第4回（2023年11月8日/東京）東アジアから見た中国

宮本 雄二（宮本アジア研究所 代表）

「中国の思考様式を踏まえた東アジアの平和構築」

第5回（2023年12月12日/東京）文化と平和

青柳 正規（学校法人多摩美術大学 理事長）

「文化の多様性と国際社会」

第6回（2024年1月9日/東京）科学技術の進歩と安全保障

山下 裕貴 氏（千葉科学大学客員教授・元陸上自衛隊中部方面総監・陸将）

「軍事科学技術の趨勢と日本の安全保障」

*市民公開講座

「多極化社会と被爆の記憶～普遍的な平和を創るために～」

広島大学平和センター主催広島平和記念資料館共催

2024年2月24日広島国際会議場ヒマワリで開催（約100名参加）

<講演>

Andrew Hoskins（英国国立グラスゴー大学教授）

ファンデルドゥース 瑠璃（広島大学平和センター准教授）

小山 亮（広島平和記念資料館学芸員）

<パネルディスカッション>

モデレーター

友次 晋介（広島大学平和センター副センター長）

パネリスト

Andrew Hoskins（英国国立グラスゴー大学教授）

ファンデルドゥース 瑠璃（広島大学平和センター准教授）

小山 亮（広島平和記念資料館学芸員）
 川野 徳幸（広島大学平和センターセンター長）
 滝川 卓男（広島平和記念資料館館長）
 （企画：ファンデルドゥース 瑠璃）



パネルディスカッションの様子

【広島大学平和企画】

「被爆体験紙芝居と音楽による平和への願い」
 2023年8月6日東千田未来創生センターで開催(約200名参加)

【研究会】

*第237回研究会（2023年5月15日）
 広島大学東千田キャンパスで開催（21名参加）
 Eveline Buchheim (NIOD Institute for War, Holocaust and Genocide Studies シニアリサーチャー)
 “Gender and the representation of victimhood in the Liji Ally Museum in Nanjing “

*第238回研究会（2023年6月29日）
 広島大学東広島キャンパスで開催（27名参加）
 黒木英充（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 教授）
 「今、あらためて民族・宗派紛争を考える：中東、そしてウクライナ」



黒木教授講演の様子

*第239回研究会（2023年10月19日）
 広島大学東千田キャンパスで開催（15名参加）
 七沢潔（ジャーナリスト・中央大学法学部客員教授）
 「福島原発事故『メディアの敗北』を考える〜「処理水」「被ばく」「吉田調書」をキーワードに〜」

*第240回研究会（2024年3月14日）
 広島大学東千田キャンパスで開催（5名参加）
 Andrew Hoskins（英国国立グラスゴー大学）
 “The crisis of living memory”

【ワークショップ】

*2023年5月13日 日本学術振興会（JSPS）科学研究費助成事業－課題番号21KK0032、石内公民館で開催(中学生対象)
 「記憶の継承と未来の創造－国際平和文化都市広島の子どもの願い－」

*2023年7月15日開催（高校生対象）日本学術振興会（JSPS）科学研究費助成事業－課題番号21KK0032
 広島大学ダイバーシティ研究センター、せこへい美術館と共催
 被爆者と高校生のボディマッピング

【セミナー】

*2023年11月14日開催 リュブリャナ大学法学部犯罪研究センターと共催
 「記憶のリサイクル」

【展示会】

*2023年8月11日～16日 日本学術振興会（JSPS）科学研究費助成事業－課題番号22H00905 せこへい美術館（広島県民文化センター）で開催

被爆者と高校生のボディマップ展示
 *2023年通年 日本学術振興会（JSPS）科学研究費助成事業－課題番号21KK0032、広島市佐伯区11公民館にて、巡回展示
 佐伯区公民館と共催
 「被爆者の絵と証言～消えた町、記憶をたどり」

【センター共催・後援・協賛のシンポジウム、研究会等】

*2023年6月8日 JICA 中国主催 平和センター共催
 フェニックス国際センター MIRAI CREA で開催
 「私たちの知らないシリア・トルコの今」
 *2023年10月20日～11月23日 広島市立大学広島平和研究所主催 平和センター後援
 広島市立大学広島平和研究所連続市民講座「広島からウクライナ戦争を考える」（全5回）をオンラインで開催

* 2023年10月23日 一般社団法人広島青年会議所主催 日本学術振興会 (JSPS) 科学研究費助成事業－課題番号 21KK0032 平和センター協力
平和記念公園、及び広島国際会議場で開催

「PEACE MESSENGER～未来の平和のために～」

* 2023年10月28日 放送大学広島学習センター主催 平和センター共催

放送大学広島平和学習センターで開催

公開シンポジウム「今あらためて「平和」を考える」

* 2024年2月9～10日 日本学術振興会 (JSPS) 科学研究費助成事業－課題番号 26257501, 19H01149, 19KK0266, 19H04355、Environmental Radioactivity Research Network Center 主催 平和センター共催

The 25th Hiroshima International Symposium

"Research on radiation and its effects in Kazakhstan and other countries"

【出版物】

* 『広島平和科学』 (第45号、2024年3月)

【社会貢献など】

●新聞、TV等での発信

●政治社会学会理事、Editorial Board Member of *RADIATION MEDICINE, ECOLOGY AND REHABILITOLOGY*、「エジプト日本科学技術大学 (E-JUST) プロジェクトフェーズ4」国内支援委員会専門部会国際ビジネス・人文学ワーキング・グループ委員、ひろしま平和研究・教育機関ネットワーク委員 (広島県)、平和宣言に関する懇談会委員 (広島市)、公益財団法人広島平和文化センター理事、平和に係る教育・研究の導入機能等に関する検討会 (旧理学部1号館) 委員 (広島市)、NGO ヒロシマ・セミパラチンスク・プロジェクト顧問、国立研究法人日本原子力研究開発機構 核不拡散政策研究委員会委員、国立研究法人日本原子力研究開発機構 将来の原子力技術に係る社会環境整備検討委員会委員、広島市ピースツーリズム推進懇談会委員、広島平和文化センター広島平和記念資料館運営会議委員、国際博物館会議日本委員会委員、公共に対する犯罪犠牲者追悼のための記念博物館国際委員会委員、Editorial Board Member, "Memory, Mind & Media", Journal Cambridge Core, Cambridge University Press、読売新聞被爆78年被爆者意識調査 (共同事業) など

【日本学術振興会科学研究費助成事業】

●川野徳幸 分担2件

●友次晋介 分担1件

●ファンデルドゥース・ルリ

・2021-2025 年度科学研究費助成事業 国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化 (B))

“Establishing Memory Studies in Japan: A Cornerstone for Peace”

補助金額：1,130万円 (2021-2025 年度直接経費総額)

・2022-2024 年度科学研究費助成事業 基盤研究 (B)

『占領下の「被爆地復興言説」と女性』

補助金額：1,020万円 (2022-2024 年度直接経費総額)

戸崎洋史准教授着任のご挨拶

2024年7月1日付で平和センターに着任しました。専門は核軍備管理・軍縮・不拡散、核戦略・抑止論で、特に現在の核問題を国際政治・安全保障の観点から研究しています。国際システム・核関係の構造的変容が進行し、1962年のキューバ危機以来最も核兵器の使用可能性が高まり、核軍備管理・不拡散体制の崩壊すら懸念され、日本も第二次大戦後では最も厳しい安全保障環境に直面していると評されるなかで、日本および国際社会は何ができるのか、何をなすべきかを考えていきたいと思っています。



Vasileva Vladisaya Bilyanova 特任助教着任のご挨拶

ヴァシレヴァ・ヴラデサヤ・ビラノヴァです。ローマ大学で学士号、広島大学で修士号・博士号を取得し、2024年4月1日付で特任助教として平和センターに着任しました。専門は被爆者研究、平和学です。「被爆者研究」・「ヒロシマの平和思想研究」の確立やその国際化を目指しています。特に、被爆者の要求 (補償・援護を含む)、思い、平和思想や運動史に関する研究をしています。最近は、「移行期正義 (transitional justice) と核の正義 (nuclear justice)」にも関心があります。



日本原水爆被害者団体協議会 (日本被団協) のノーベル平和賞受賞、心よりお祝いを申し上げます。日本被団協は、約70年にわたり地道にかつ粘り強く「核なき世界」、「絶対非戦」を訴え続け、国内外の平和活動を牽引されてこられました。同団体、そしてすべての被爆者に心から敬意と祝意を表します。